

## メッセージ

「2010年反核・平和マラソン」が広島、長崎ほか16か所で開催されるに当たり、メッセージをお送りいたします。

ヒロシマは、65年前の被爆体験を原点に、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けてきましたが、その努力はようやく世界的な動きにまで発展してきました。

昨年4月のオバマ大統領によるプラハでの「核兵器のない世界」に向けた演説や9月の国連安全保障理事会の核兵器廃絶決議などに代表されるように、世界は今まさに核兵器廃絶に向けて大きく動き出しています。このようなリーダーが活躍し始めた時代に生きる私たちは力を結集して、核兵器廃絶に向け全力を尽くさなければなりません。

全世界の約4,000都市が加盟する平和市長会議では、これら加盟都市の市民、世界のNGO等と連携して、2020年までの核兵器廃絶を目指し「2020ビジョン」を展開しています。2020年が大切なのは、一人でも多くの被爆者と共に核兵器の廃絶される日を迎えたいからであり、また、私たちの世代が核兵器を廃絶しなければ、次の世代への最低限の責任さえ果たしたことにはならないからです。

今年5月、アメリカのニューヨークでNPT（核不拡散条約）再検討会議が開催され、平和市長会議は、市長代表団を組織して参加しました。現地では、各国政府代表等に対して、「平均年齢が75歳を超えた被爆者が生きているうちに核兵器を廃絶する責任が私たちにはある。そのために必要な皆さんの政治的意志を未来の世代のために発揮してほしい」と訴えました。平和市長会議が主催した会議には、潘基文国連事務総長が出席して下さり、「今こそ全面的な核軍縮を行わなければならない」として、平和市長会議の取組を称讃して下さると共に、今年の広島での平和記念式典への参列を改めて表明されるなど、平和への強い意気込みが伝わり、非常に心強く感じました。

また、核兵器のない世界の実現は、人類史上、特筆すべき出来事になります。広島市は、2020年の核兵器廃絶実現を記念する「平和の祭典」として、2020年オリンピック招致を検討しています。

21世紀は、都市や市民の力で問題を解決できる時代です。対人地雷の禁止、グラミン銀行による貧困からの解放、温暖化の防止等、大多数の世界市民の意思を尊重し市民の力で問題を解決する地球規模の民主主義が発芽しつつあります。その芽を伸ばし、核兵器廃絶というさらに大きな問題を解決するためにも、平和を願う「2010年反核・平和マラソン」が開催されますことは誠に意義深く、その取組に対し深く敬意を表します。

皆様には、今後とも、核兵器廃絶とオリンピック開催という二つの夢の実現に向け私たちと共に力を尽くし、行動して下さることを心から期待いたします。

終わりに、「2010年反核・平和マラソン」の御成功と御参加の皆様の今後ますますの御健勝と御多幸をお祈りいたします。

平成22年（2010年）5月

平和市長会議  
会長 広島市長 秋 葉 忠 利